

浄泉寺報

第24号
2021年
春彼岸

再び、コロナ禍に想う

浄泉寺住職 望月廣三

人間は「心を耕さねばならない」とお釈迦様は教えられました。「耕す」とは開発のことですね。「心の開発ですね」「開発」とは潜在している才能や能力を引き出して育てること、ですね。

コロナ禍によって人間性を失っている人がすくなくありません。それが歪んだ社会現象にさえなりつつあります。いや、すでになっている面があります。こうした現状からどうしたら抜け出せるか、医学界や行政においても必死になって闘っています。仏教界においてもさまざまな提言が行なわれていると思いますが、なんといっても病気に負けないというその気概がいま、最も求められ

ている課題ではないでしょうか。

コロナウィルスの撲滅は医学の力に依るしかありません。それ以外に頼る道はありません。そんなことは誰でもわかっていることです。しかし医学以外に依るものとして、仏教の教えが必要だと思われる人は果たしてこの国に何人いるでしょうか。わが国は仏教国だと言われていますが、住職である私の立場から見れば、けっしてそうとは思えません。

「心身共に」という言葉がありますね。人間は「こころ」と「からだ」の二つから成り立っています。ところがどうでしょうか、人は「からだ」に対してはこのうえもなく気を遣いますが、「こころ」の問題にたいしてはあまりにも無頓着すぎはしませんか。実際は、日々不安な問題をかかえて悩まされているにもかかわらず、どうしてそうなるのか、私には解

りませんが、しかしこのコロナ禍によって「こころ」の問題がなお疎かにされている現状にあることは否めません。これでは「コロナ」に勝つことはできないでしょう。

仏教は、どんな素晴らしいダイヤモンドでも最初は単なる鉱石にすぎない、と教えています。つまり、最初からあの磨き上げられたダイヤモンドなど、どこにも存在しないのだ、ということなのです。

人にはそれぞれ苦難を乗り越えられる才能や能力が備わっていると思います。コロナ禍に打ち勝つ、けっして負けない才覚があるはず。しかしそれは、お釈迦様がおっしゃられるように、心を「耕す」必要があります。どんなにコロナ禍に負けない才能や能力があっても、それが発揮できなければ、この苦境は乗り越えることはできないでしょう。

この感染症はそう長くは続かないでしょう。何千万人も人が亡くなったペスト菌にも負けなかったのですから。しかし、いかまた新しい感染症が蔓延しないとは限りません。そのためには、いや、そのためばかりではありません、様々な日常的不安や悩みから救われるには仏さまの教えを聞き、心を耕さねばなりません。浄泉寺の月例の法座会（同朋会）はそのためにあるのですから。

浄泉寺からのお知らせ

● 同朋会 ●

浄泉寺では、毎月お勤めと住職の法話を中心にした同朋会を開催しています。どなたでもお気軽にご参加いただけますので、ぜひお越しください。日程等の問合せは浄泉寺まで。



若坊守のひとりごと

下の息子は1歳9か月になりました。最近、雨が降ると大好きな水溜まりができることを覚え、夜に雨が降ると翌朝に想いを馳せながら、ニヤニヤ笑って「みじゅたまい(みずたまり)」と呟いたりします。そういえば上の娘も2歳くらいの頃、水溜まりが大好きで雨が降ると喜んでいたことを思い出しました。

雨を煩わしく思うのはいつからなのでしょう。子どもは晴でも雨でもその時々で楽しみを見つけ、遊ぶ天才です。日々是好日(にちにちこれこうにち)という言葉のように、天気もそのままを受け入れ、毎日を一期一会と楽しんでいるようです。

コロナ禍の中、私達の生活は不安定なものになった様に見えます。しかし、コロナの前は安定して不安が全くない生活だったかという決断はそうではなく、私達は今も不安定な中を生きています。もっと言えば、不安や不安定こそ私達の生きる場所ではないでしょうか。

(浄泉寺若坊守・釋尼彌名)

お内仏(仏壇)に座る ② ～ 聖徳太子と親鸞聖人 ～

浄泉寺の本堂に聖徳太子のご絵像が掛かっていることをご存じでしょうか？ご本尊向かって右側、親鸞聖人のお厨子のさらに隣に聖徳太子のご絵像を安置しています。聖徳太子の御命日は2月22日ですが、今年は1400回忌にあたります。本山・東本願寺では4月3日・4日と聖徳太子千四百回御忌法要が勤まり、法要の様子はYouTubeでも配信されますので、ぜひインターネットからお参りください。



東本願寺公式 YouTube チャンネルはこちらの QR コードから

さて、浄土真宗のお寺になぜ聖徳太子なのかということですが、親鸞聖人は聖徳太子のことをとても大切に思っておられました。親鸞聖人の生涯の節目節目で聖徳太子が夢の中に現れ、そのことを機縁として親鸞聖人は南無阿弥陀仏の教えに出遇っていきました。

ではなぜそれが聖徳太子だったのか？一つには、この国に仏教が広まったのは聖徳太子がおられたからこそということがあります。そしてもう一つ、聖徳太子は僧侶ではなく、在家の身として仏教に照らされて生き切られた先人であるということ。公然と肉食妻帯という生き方を選び、非僧非俗つまり聖なる僧侶でもなく、かといって開き直って誤魔化しの世俗の価値観に埋没することも許されないありのままの人間存在そのものに向き合った親鸞聖人にとって、聖徳太子は父であり母のような存在であったということなのでしょう。

(浄泉寺若院・釋亜世)

令和3年(2021年)年忌表

ご法事(年忌法要)は、亡き人をご縁に、仏さまの教えを、今生きる私たちが聞かせていただく大切な機会です。浄泉寺本堂でご法事を勤めることもできます。

一周忌	令和2年(2020年) 亡
三回忌	平成31 令和元年(2019年) 亡
七回忌	平成27年(2015年) 亡
十三回忌	平成21年(2009年) 亡
十七回忌	平成17年(2005年) 亡
二十五回忌	平成9年(1997年) 亡
三十三回忌	昭和64 平成元年(1989年) 亡
五十回忌	昭和47年(1972年) 亡

<発行元・問い合わせ>



真宗大谷派 楠林山 浄泉寺 電話 0799-22-4798
〒656-0026 洲本市栄町4-3-43
ホームページ <http://jyosenji.asei.info>